

1 なぜ平川市には「館」のつく地名が多いのか

資料 1

令和8年9月定例会一般質問資料 葛西勇人作成

(1) 南部家の本城「聖寿寺館」とは (※「南部家の本城 聖寿寺館調査の最前線－見えてきた室町・戦国の南部氏－」(南部町教育委員会 布施和洋氏) 資料参照)

- 青森県三戸郡南部町にある、三戸南部氏の本城・居館
- 15世紀前半頃に成立し、1539年の火災で焼失するまで、約100年間にわたり**政治・軍事の中心**として機能した
- 奥州街道と八戸・鹿角方面を結ぶ交通の要衝に位置し、馬淵川の水運も利用できるなど、**人・物・情報が集まる拠点**であった
- 南部氏の津軽進出後、日本海・北方交易との結びつきが強まった可能性があり、国内外の交易品が多く出土する時期を迎えた
津軽支配の拡大は、領土の拡大だけでなく、**南部領と津軽・日本海を結ぶ流通網にも大きな変化をもたらした**と考えられる (図1参照)

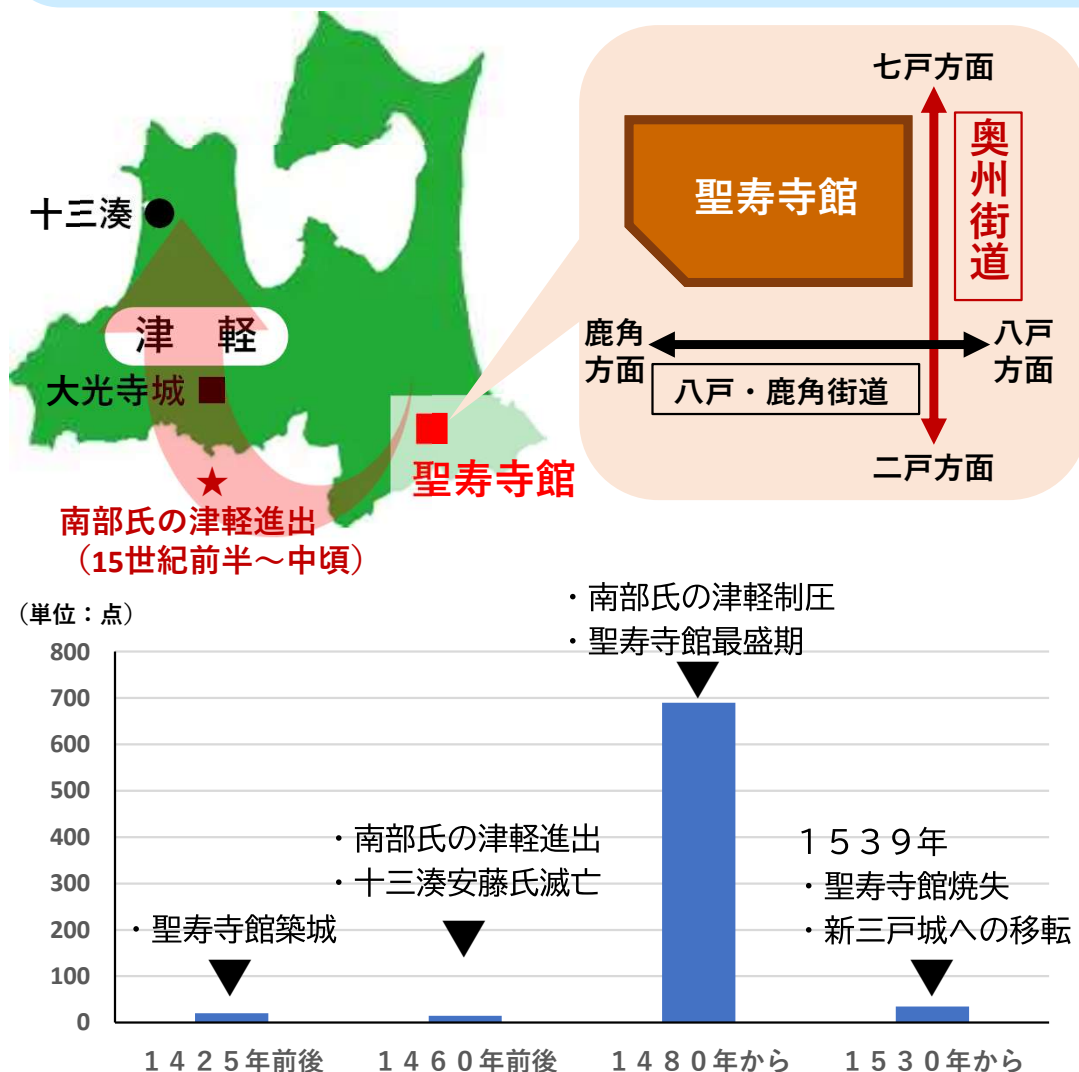


図1 聖寿寺館跡出土陶磁器量の年代推移 (瀬戸美濃製品)

(2) 「館」と「城」の関係について

- 「館」は、中世の武士や地域の有力者が、人々が暮らす集落や農地の近くに設けた**居住・地域支配の拠点**で、周囲に堀や土塁を備えるものもあった (図2参照)
- 「城」は戦乱が激しくなる中で、**防御や軍事、より広い地域の支配を重視して築かれた拠点**である。その周辺に家臣や住民が集まり、町が形成される場合もあった (図2参照)
- 両者に明確な境界があるわけではなく、時代の変化に伴い、**館が防御機能を強化し、城館へと発展・再編**された例もある

※ 平川市周辺には「館」のつく地名や中世城館跡が数多く残されている。その背景には、在地武士や地域の有力者による支配拠点が各地に形成されていた可能性が考えられるが、文献史料が少なく、詳しい成立過程は十分に解明されていない。

項 目	館	城
主な性格	居住・地域支配	防御・軍事・地域支配
立 地	集落・農地・交通拠点など	防御・交通・支配に適した場所
施 設	主殿・会所・堀・土塁など	曲輪・堀・土塁・虎口など

図2 館と城の主な違い

1 なぜ平川市には「館」のつく地名が多いのか

資料 2

令和8年9月定例会一般質問資料 葛西勇人作成

(3) 平川市周辺20城館の概要（個人調べ：文献・伝承・推定を含む整理）

➤ ①13～14世紀頃から地域ごとの城館が形成 → ②15～16世紀、南部氏の津軽支配の進展に伴い、城館群が再編・強化された可能性

城館・館	主な氏族	主な役割	街道・交通	1200	1300	1400	1500	1600
岩 館	曾我氏関係	地頭代・古い村落支配	奥大道系／平川流域	● 1219年 岩橋村地頭代職 年代不詳				
浅瀬石城	千徳氏	谷口防衛？地域拠点	浅瀬石川谷口	伝承 1240？				
大光寺城	曾我→安東→南部→津軽	政治・軍事・物流の中核	奥大道系／乳井通		13世紀初から継続			
田舎館城	工藤氏→千徳氏	平野部支配・地域拠点	大光寺－浪岡方面		1336以前に存在か？			
尾崎城	曾我氏→尾崎氏	大光寺支城・在地支配？	大光寺東南部		1339以前に存在か？			
五日市館	安東氏？	大光寺支配の中間拠点？	大光寺周辺路		1338頃か？			
杉 館	不 詳	在地居館・地域支配？	大光寺周辺路		年代不詳			
館田館	不 詳	農地、集落管理か？	平川流域		年代不詳			
南田館	不 詳	地域の交通・防衛拠点	大光寺周辺路		年代不詳			
唐竹古館	不 詳	山側・資源／街道監視？	唐竹・山麓路		中世・年代不詳			
松 館	不 詳	防衛拠点（見張り台？）	平川流域		地名・推定			
館 山	不 詳	軍事拠点？	平川流域		地名・推定			
乳井城	乳井氏（宗教勢力）	奥大道監視・宗教勢力拠点	奥大道系／乳井通		築城不明			
広船館	阿部氏→桜庭氏	大光寺出城・在地支配	山麓路			中世・年代不詳		
三ツ目内城	在地勢力→津軽氏	境目防衛・街道監視	比内境／奥大道系			中世・年代不詳		
高畑城	滝本氏→乳井氏	乳井牽制・大光寺支城	奥大道系城館群				年代不詳	
沖館城	不 詳	大光寺支城・防衛拠点	奥大道系城館群				年代不詳	
新館城	不 詳	大光寺周辺の市場・居館	奥大道系城館群				年代不詳	
新屋城	新屋氏（滝本配下）	大光寺支城・家臣居館	奥大道系城郭群				16世紀後半確認	
石川城	曾我→南部→津軽	津軽支配の戦略拠点	奥大道		1334～1611			
聖寿寺館	三戸南部氏	政治・軍事・物流の中核	奥州/八戸鹿角街道			1420頃か？	1539焼失	

※ 個人調べ（伝承・推定含む）

○ 奥大道：津軽平野を南北に貫く主要道だが、ルートは不明

15世紀前半～中頃の南部氏津軽進出 1590年 為信の津軽領有公認？!

1 なぜ平川市には「館」のつく地名が多いのか

資料 3

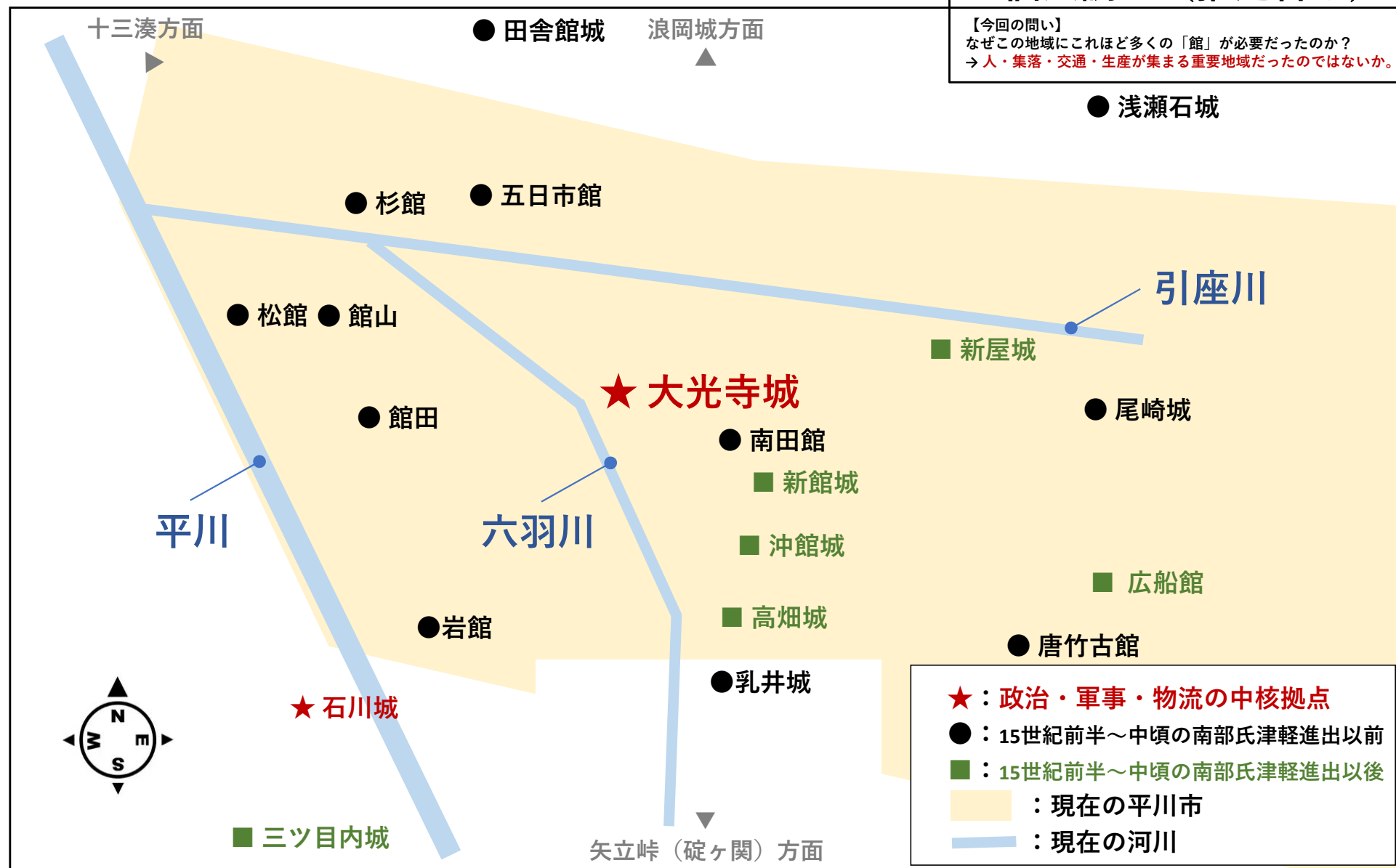
令和8年9月定例会一般質問資料 葛西勇人作成

(4) 平川市周辺20城館の位置図?! - 「館」のまち平川! 中世の歴史ロマンを未来の教育・観光資源へ -

➤ 中世の城館は、時代の変化の中で再編・強化され、相互に結びついた可能性

※個人調べ（推定含む）

【今回の問い】
なぜこの地域にこれほど多くの「館」が必要だったのか？
→ 人・集落・交通・生産が集まる重要地域だったのではないかな。



平川市は「館」が数多く残る地域。中世の地域社会を体感できる歴史資源として大きな可能性を持つ！

2 持続可能な高齢者福祉・介護体制について

資料4

令和8年9月定例会一般質問資料 葛西勇人作成

(1) 平川市社会福祉協議会様との意見交換会より見えた主要課題の全体像

現 状

介護を必要とする人はいる。しかし、介護を担う人材が不足し、サービス提供体制の維持が難しくなっている。

1

訪問介護の人材不足

求人難・職員高齢化・新規受入れ困難

2

訪問介護の経営悪化

人件費・車両費・移動時間が重い

3

通院介助・地域格差

医療機関までの距離、待機・付き添い負担

4

地域見守りの担い手不足

安心電話協力員・町会機能の低下

5

制度の狭間への対応増

生活困窮・権利擁護・身寄りなし

現場から見えた課題は「介護需要」だけでなく「支える側の持続可能性」

2 持続可能な高齢者福祉・介護体制について

資料 5

令和8年9月定例会一般質問資料 葛西勇人作成

(2) 平川市社会福祉協議会様からの主要課題に対する現状・原因・解決策など

主要課題	現 状	想定原因	解決策・検討方向
訪問介護の 人材不足	・ 求人としても応募が少なく、退職者再雇用で対応 ・ 新規受入れ困難も	・ 生産年齢人口減 ・ 介護職の負担感 ・ 処遇課題 ・ 職員高齢化	・ 事務所別に職員数・年齢構成・受入れ余力を調査 ・ 資格取得・研修・定着支援を検討
訪問介護の 経営悪化	・ 社協の高齢者向け訪問介護は赤字のため、他事業収益で補完しながら維持	・ 介護報酬と実コストの乖離 ・ 車両費・移動時間の増加	・ 経営実態を把握し、車両購入・維持費等への支援可能性を検討
通院介助・ 地域格差	・ 社協の事例では、碓ヶ関から弘前市内への通院介助に半日程度を要する場合も ・ 待機・院内付き添いが報酬に反映されにくい	・ 医療機関までの距離 ・ 公共交通の制約 ・ 介護報酬で十分にカバーされない部分	・ 移動・待機・院内介助の実態調査 ・ 他自治体の助成制度を研究
見守りの 担い手不足	・ 安心電話協力員確保が困難 ・ 固定電話離れで利用も減少	・ 高齢化 ・ 町会機能低下 ・ 夜間休日対応の負担 ・ 機器の旧式化	・ I C T・センサー・民間連携を含む新たな見守り体制へ転換
制度の狭間 への対応増	・ 生活困窮、身寄りなし、金銭管理、親族関与拒否等が増加	・ 孤立 ・ 認知症 ・ 世帯小規模化 ・ 物価高 ・ 家族関係の希薄化	・ 市・社協・包括・司法専門職・福祉法人の連携を強化

第9期計画の検証 → 現場とのギャップ把握 → 第10期計画に対応策・検討方向を反映する

2 持続可能な高齢者福祉・介護体制について

資料 6

令和8年9月定例会一般質問資料 葛西勇人作成

(3) 人材確保と第10期計画：供給体制を柱に

目指す姿

必要な介護・福祉サービスを、必要な市民に、
将来にわたって届けられる体制

① 介護人材の確保

(人材確保策の検討例)

- 資格取得・研修支援
- 就職・定着支援
- 外国人材・ICT活用
- 事業所への聞き取り

★ 市独自の視点

どうすれば、平川市の介護
事業所で働いてもらえるのか

② 第10期計画で求める方向

需要量だけでなく
供給体制を計画する

介護人材

事業所

通院・移動

地域の支え合い

※「どれだけ必要か」だけでなく「誰が・どこで・どう提供し続けるか」を計画する

★市への確認

「必要なサービスを、必要な市民に、将来にわたって
届ける体制」を次期計画の重要な柱に位置付ける考え
はあるか。